

洋 10-153 (ショートコメント)

「男たちの挽歌」 ★★★

2010 (平成22) 年12月13日

鑑賞<東映試写室>

監督：ソン・ヘソン

製作総指揮：呉宇森 (ジョン・ウー)

キム・ヒョク (北朝鮮特殊部隊出身の脱北者) / チュ・ジンモ

キム・チョル (脱北者の刑事、ヒョクの弟) / キム・ガンウ

リ・ヨンチュン (北朝鮮特殊部隊出身の脱北者、ヒョクの仕事上の相棒) / ソン・スンホン

チョン・テミン (チョン社長の甥) / チョ・ハンソン

チョン社長 (釜山の武器密輸組織のボス) / キム・ヘゴン

パク警部 / イ・ギョンヨン

2010 年・韓国映画・123 分

配給 / 東映

◆ あれ、このタイトルは「香港ルノワール」の代表作である呉宇森 (ジョン・ウー) 監督の『男たちの挽歌』 (86 年) と同じ。それがなぜ今、韓国映画で？そう、これは登場人物や原作のテイストを生かしながら、時代や舞台を一変させた韓国版『男たちの挽歌』なのだ。

女優は一切登場せず、4 人の男たちの物語が展開されるが、その中心人物は北朝鮮特殊部隊出身の脱北者で、今は釜山にある武器密輸組織のボスであるチョン社長 (キム・ヘゴン) の下で銃の密売をしている男キム・ヒョク (チュ・ジンモ)。ヒョクの弟分とも言うべき相棒がリ・ヨンチュン (ソン・スンホン) だが、ヒョクには脱北する際に引き裂かれてしまった実の弟キム・チョル (キム・ガンウ) がいた。ヒョクはコトある毎にチョルのことを尋ねていたが、何とチョルも今は脱北し韓国にいるらしい。さて 2 人の再会は？

もう 1 人の男が、チョン社長の甥のチョン・テミン (チョ・ハンソン)。テミンは今はヒョクとヨンチュンの陰に隠れた「第 3 の男」的存在だが、「今にみている、ボクだって！」と思っていたことが、中盤以降のテミンの動きで明らかに・・・。

◆ 本作のテーマは兄弟愛。8 月 30 日に観た韓国映画『義兄弟』 (10 年) もタイトルどおり「兄弟愛」の物語だったが、その甘ったるさのため、私の採点は星 3 つ。本作で弟のことを気遣うヒョクにチョルが反発するのは、兄だけが脱北したために残された母親は死亡し、自分も大変な目にあったから。しかし、今チョルはパク警部 (イ・ギョンヨン) 支援の下で立派な韓国の警察官になっているのだから、2 人で話し合い過去のわだかまりを解消すれば、兄弟 2 人仲良く韓国で暮らせるはず。ところが、1 度ひがみ根性を持ってしまうと・・・？

他方、心の底からヒョクのことを兄貴分と考え、ヒョクのためなら命も惜しまないというイケイケタイプの男ヨンチュンにとっては、実の弟チョルは一面ではうらやましく、他面では疎ましい存在？武器の密売というヤバイ仕事では、華々しい時代はいつまでも続くはずはない。「これが最後」、と考えたタイでの大仕事で相手方の裏切りにあったヒョクは、3 年間刑務所へ入ることに。他方、兄貴の仕返しに敢然と臨んだヨンチュンは銃撃戦で負傷し、今は左足をひきずりながらみじめな生活を。そんな中でのし上がり、今やチョン社長に代わって釜山の武器密輸組織のボスにおさまっているのがテミン。

ヒョクの出所をきっかけにそんな 4 人が徐々に再会することになるのだが、あの仲良しだった時代に戻ることができないのは当然。そればかりか・・・。

◆ 本作のハイライトはラストにおける大銃撃戦だが、そこにたどりつくまでのストーリー展開はかなりまどろっこしい。そのうえ、「兄弟間の確執」がチョルによるまるで駄駄っ児のような行動で表現されるから、少しうんざり。また、本作ではチョルを警察官に設定しているが、脱北者が韓国でそう簡単に警察官になれるの？そんな疑問があるうえ、チョルは組織の一員としての動きを全然示さない。チョルを警察官にすることにこだわったのは原作がそうだったからだろうが、何も無理して彼を警察官に設定する必要はなかったのでは？そんな疑問も湧いてくる。また、今はテミンが牛耳っている銃の密売組織だからといって、テミンのアジトにはなぜあんなにすごい量の重火器 (？) まで保管されているの？

激しい銃撃戦のさなかにやっと兄弟間の確執が解消され、兄弟愛の確認がなされるのだが、そのハイライトシーンはあまりにも甘すぎ？

2010 (平

成22) 年12月13日記